

R8.2.21

吉井小学校授業研究会

吉井小「授業研究の流儀」
～問いをつなぐ学びを創る～

「自らの人生を舵取りする力」

新たな学習指導要領改訂に向けた検討
(論点整理資料P5・6から)

「自らの人生を舵取りする力」
どんな力？

待つ から つかむ

指示待ちから、主体的に考え、
活動する子どもの姿への転換

待つ から **つかむ**

指示待ちから、**主体的に考え、**
活動する子どもの姿への転換

学びの充実を図る必要がある

教師の出番！

あなたの教師としての
強みは何ですか？

私の教師としての強みは、
問題意識をもって学び続けること
です。

学びをデザインする高度専門職 としての教師

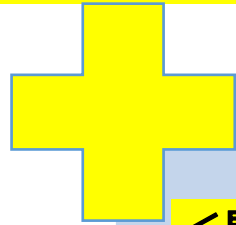
論点整理資料から

プロ意識 自ら考え 創り出す

教えることと学ぶこと (問題意識の発端)

- 教えたはずなのに子どもたちの意識に残っていない
- 自分事として捉えられていない
- 系統的な学習プログラムの限界 (教材の内容から)
- どのように学ぶことで子どもたちの意識に入るのか

なぜ問題解決学習にこだわるのか



<問題解決学習>

- ・子どもからスタート
- ・目標に向かうプロセス(意識・思考の流れ)
- ・追究する楽しさ
- ・つまづきをチャンスに
- ・生き方を更新
- ・学力=追究する力、学び続ける力
- ・経験を想起して思考する
- ・切実感をもって知識を獲得する

<これまでの学習>

- ・教材からスタート
- ・目標への到達度
- ・達成する楽しさ
- ・つまづかないようレールを敷く
- ・知識技能の習得
- ・学力=知識技能の量
- ・知識を与えないと思考しない
- ・知識を教え込む

様々な問題に正対して、主体的に考え、自らの意思をもって、行動できる力を授業を中心として育てていきます。

子どもの姿からスタートする授業の構成要素

この子の課題

この子の
生活経験

教師の
願い

素材

教材

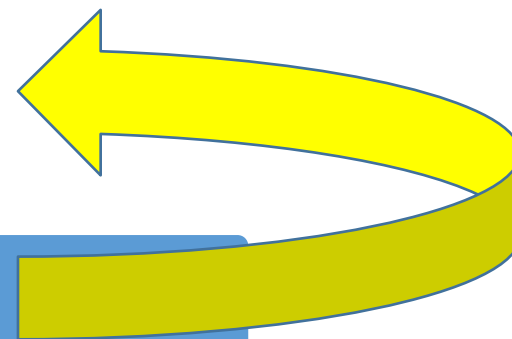
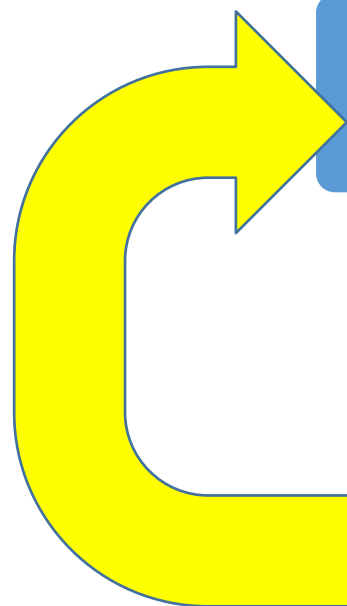
授業構想

(単元全体構想)

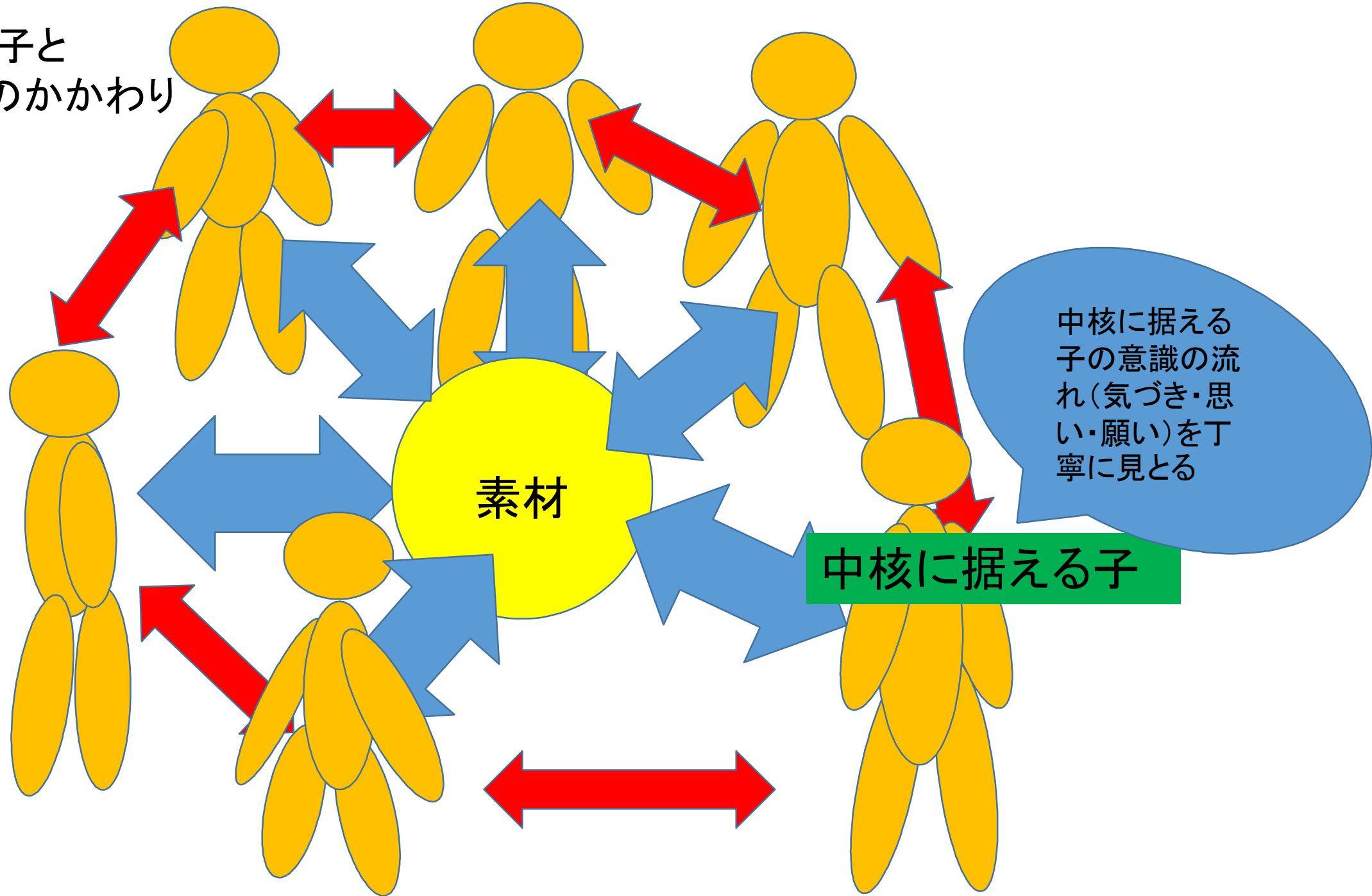
座席表授業案

(子どもの出方の予想)

授業(同時に評価)



中核に据える子と
まわりの子とのかかわり



学びのスパイラル

試行錯誤し問題解決の過程をたどる

試行錯誤

新たな問い

新たな疑問

一応の問題解決
(不安定)

一定の問題解決(不安定)

必要な知識・技能をつかむ

問題意識

試行錯誤

問題意識

問題意識

身近な素材

問題意識

身近な素材

問題意識

生活

個

生

活

個

個



個に焦点を当てた学び

- 地域にある素材を生かした学びの重要性
(身近なもの・こと・人)
- 問いが生まれるような素材との出会い
- 問いがつながる学習によって子どもの意識もつながるのでは
- 子ども主体の学びへの転換
- **子どもの出方を見て、それを受けて出る**

個の問題意識を追求する学びこそが 自己実現につながる

- 個の問いを共有し、問題解決していく学びの過程に重きをおく
- 一人ひとりが自分に向かいあい、生活につなげ、考えを深める
- 学び合いの中で個を育てる

子どもの生き方を問う授業の手だて ～個の確立をめざした学びの創造～

- 子どもの意識を見る（カルテ）
- その教材とその子の関係性（座席表）
- 授業の全体の構想を立てる（全体のけしき）
（※静岡市安東小学校の授業実践研究を参考）

授業には、予期せぬストーリーがある

- ゴールがある。しかし、そこに辿るまでの一人一人の子どもたちの辿り方は様々。
- 互いの「見方・考え方」がぶつかり、試行錯誤しながら、個々の気づきが深まり、ゴールへと導かれていく。まさに**目の離せないストーリーが、授業にはあるはず**です。
- **学びのプロセス**の中で一人ひとりが**どのように学んでいるか**を丁寧に見とり、充実させる手だてを考えることが大切。

野球型授業とラグビー型授業 あなたはどっちの授業をめざすのか

【野球】

- 毎回、監督の指示のもと、動く
- 決められたポジションでの固定的な動き
- 打順は固定
- 監督がシナリオを描き、想定した試合運びが重んじられる
- サイン違いの動きは御法度
- バント失敗は許されない！

【ラグビー】

＜選手＞

- 常に動的であり、選手の判断と動き
- 選手間のやりとり
- トライに向かう試行錯誤
- 意図したパス回しと偶発的なチャンス
- マニュアルだけでは生まれないトライ
- 経験から培われた直感・感性からの動き

＜監督＞

選手の実性把握。ハーフタイムと選手交代
(数少ない機会にどう揺さぶるか)

私たちの授業への構え

- 意図的に体験を経験に繋ぐ場
- 説明することではなく、尋ねることが基本
- 追求し、つかむこと
- 安易に与えることはどうか

生きた授業をつくる7つの合い言葉

- 計画はかならず破られ、修正されなくてはならない
- 正解はつねに複数である
- 間を生かしてこそ思考が始まる
- 右往左往して迷いながら、辿る時に思考が深まる
- 教えないこと、少なくしか教えないこと
- 教科・領域の枠はあくまでも教師側が系統的に指導しやすくするための手段であり、子どもの思考の流れではない
- 前時の問いからつながる新たな問いを見い出す

徹底した子ども理解の必要性

- 子どもの生活を見とることで、授業の中で表出されるその子の真の姿を流すことなく捉えることができる
- 個の生活につながる発言やつぶやきを全体への問いとして押し上げることで、位置づけた子と全体との関係性が見えてくる
- 徹底した子ども理解から始まる学習の創造は、子どもの事実を記録し、その積み重ねから見える子どもの姿から学習構想を立てる。

記録(カルテ・座席表等)で子どもを理解する

- 「あれ, いつもと違うぞ」
- 「おやっ, こんな場面もあるぞ」
- 具体的かつ多面的に捉える

- 教師自身が必要な情報を記録
- 参観者に伝えたい内容を書く
- カルテをもとに一人一人の子どもの捉えと願いを記す
- 他の子との関わりやつながりが見える

授業研究の流儀～子どもを見て・語る～

授業のどこをみるか。

- 授業の過程(プロセス)で子どもたちがどのように学んでいるのか。
- 研究授業では「子どもの姿」に着目する。
- 「子どもの姿」からストーリーを読み取る。

子どものよりよい学びを創る授業研究を考える

- 授業は「問題解決学習」が基本です。「結果」ではなく「過程（プロセス）」に重きをおくことが重要です。
- 前例にこだわることのない、創造的な授業研究のあり方を考えていきましょう。
- 子ども一人一人をとらえた学びの実現に向け、互いにアイデアを出し合いながら学び合いきましょう。
- 独自の授業研究会の継続開催に向けて